

さみしい夜の句会報 第106号 (2023. 2. 26-2023. 3. 5)

- ◆ 参加者：はかなし、susie、何となく短歌、みおうたかふみ、みくるとん、千春、層乃ハコ、鴨川ねぎ、水の眠り、石川聡、かのん、たろりずむ、雪上牡丹餅、式定住佳、秋鹿町、カゲキ・ちゃげぞう、天やん、しまねこくん、元さん、みさきゆう、石原とつき、西脇祥貴、しるとも、najimi、雷(らい)、おかもとかも、海馬、西沢葉火、上崎  
汐田大輝、海月漂、Ru'san、菊池洋勝、蔭一郎、鷺沼くぬぎ、らいる、hyutoppa、霧島あきひ、とるはじーる、片羽 aru、雲雀、岩瀬  
百、流天、月硝子、crazy lover、蜜、岡村知昭、電車侍、まじりん  
さん、ちゃんまり、さー、和泉明月子、太代祐一、凧ちひろ、Daily  
Flan、fuu、花野玖、輪井ゆう、抹茶金魚、馬勝、Eureka、donkey、  
すずしろゆき、藤井皐、涼閑、雲心、Somekawa Yukio、雪夜舞星、の  
んのん、しま・しましま、ゆりのはな、me、瑠璃雲雀、小沢史  
こばやし雨子、宮坂愛哲、みんみん、しろうとも、and' PERCHES、水須  
ゆき子、紅志野、パワーみのり、うめたかな、Tatsuo Kanase、Tomo、  
蟻男(ミナ)、涼、まどけい、ヤナ・ヤヌー、森内詩紋、高良俊礼、ふ  
にふにヤンマー、山桜桃えみ、徳道かつみ、月波与生(九七名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

春のゆめ退屈な日のドビュッシー Tomo  
雲よりも浮雲に乗る長い列 蔭一郎  
明日各位ズボンのひもはしまいなさい 西脇祥貴  
市民課にこの身は果てるけど、ばにら？ 西脇祥貴  
猫が来て死者が蘇らなくなる 抹茶金魚  
好きな子に見せるたんぼ食ふところ たろりずむ  
満ち欠けをしているエビとエビの骨 秋鹿町  
母音にも哀しみがある秋葉原 秋鹿町

早朝のオペラアトのごと春の月 とるばどーる  
ウエストは作るものです二月尽 しまねこくん  
風じゃなく友が動いている景色 西沢葉火  
時々晴れる美術館 西沢葉火

マフラーを冬の尻尾として仕舞う 上崎

もしもしのもをモクレンに吹きかける 秋鹿町

芳一のLIFEを既読スルーする 蔭一郎

湯気立てや飲込めぬ病名を聞く 菊池洋勝

確定申告 野焼の跡を踏みしめる 石川聡

巨大な金槌ガブリエル春の夜<sup>三</sup> 石川聡

ぬいぐるみじゃなきやおかしいくらい絵本 おかもとかも

子どもらがヨリミチと呼んでる施設 おかもとかも

笹かまになれそうな石鱈ばかり 上崎

雛祭に生まれてちよつと恥づかしい たりりずむ

春色の電波塔から来る祈り 秋鹿町

お別れの準備をしよう Boys II Men 養花天 片羽雲雀

婦人部の揉めごと公民館に春 岩瀬百

もうITLに流れてこない犬のしっぽ 海馬

日本の土筆を元の穴に差す しまねこくん

怪獣が出たら名前を付ける部署 たりりずむ

くるつとまつ毛ふるるつとおぼる月 海馬

加湿器を抱いた地球を抱いている 千春

啓蟄や玉子焼の玉子売切れ SYUSYU

ミモザ咲く紛れるほどのプロポーズ 雲心

眠れない夜があるの知らぬ人 みおうたかふみ  
春夢想 私の彼は 左利き みくるたん

猫の恋「シャー」と鳴かれて悲しいニヤ 屑乃ハコ

こんやくくとひじきを知って川わたる 水の眠り

段下りて しなやかに女雛 旅に出る かのん

関白宣言かかあ天下に矛盾せず 雪上牡丹餅

思い出す歌もないまま過ぎる冬 式定住佳  
我独り君は誰かと酔い臥所 カゲキ・ちゃげぞう  
ゆく春やヴァイオレットな恋心 天やん  
緋月は昨日の爪の屍か しろとも  
空欄に薔薇の芽置けば女の子 najiri  
顔も出てこぬ人の怪談だけ出てくる 雷  
三月はロビーで待つよ老いるまで 汐田大輝  
輝きは日付変更線に乗る 海月漂  
三年の齒列矯正ピカレスク Ryu\_sen  
春遅々の小夜の微熱や小さき棘 鷺沼くぬぎ  
明けな夜がないことが救い らいる  
風の無き空しか知らぬ雛かな hyutoppa  
雛壇の裏で仕丁の与太話 しろとも  
しばらくは言葉の沼に落ち込んで 流天  
雛出せば官女の閨に右大臣 月硝子  
蜜蠟の弥勒菩薩を持ち帰る 岡村知昭  
紙雛や 図書館の窓 空青し 電車侍  
終わらない利用規約の生姜焼き まつりぺきん  
春一番清掃員の磨く空 ちゃんまり  
春の川光るを見つめ私と影 和泉明月子  
海と空の間には 僕だけがいる fuu  
目を瞑る亀鳴く声に耳澄ませ 花野玖  
暗がりをはさむまつ毛とつけまつ毛 輪井ゆう  
異文化に放流されて鱧五郎 馬勝  
ミモザ咲く窓辺のふたり分かち合い Eureka  
始終くしゃみ鼻水喉鼻眼掻 donkey  
恋知らぬ猫とアリアを聴く月夜 すぐしろゆき  
森の影から水疱を潰す音 藤井卓  
約束を違えぬようにふと黙す 涼閑  
文字化けと忘れる記憶 雪消水 雪夜彗星  
もう一度生まれてみたいエトピリカ のんのん

いっせいに椿の人が席を立つ　しま・しましま  
ピュアなのは私じゃなくてマヨネーズ　ゆりのはなこ  
船上や紫煙の還る冬銀河　瑠璃雲雀  
春泥や人形の靴見つからぬ　小沢史  
蓮華草ミツバチ待てずフライング　こぼやし南子  
くよくよと無駄も人生つづら折り　宮坂変哲  
五体満足不自由を飼う　紅志野パワーみのり  
小心ペンギン翔の失樂園　Tatsuo Kanase  
灯油を入れてあげない　ストーブへの意地悪　蟻男  
屋根の上猫か何かが歩いてる　涼  
エヴァンスを聴いて眠るや虎落笛　まどけい  
手紙には時効はないと書いてある　月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

スカスカの腹にイチゴをはめてみるちよつとピースが合わ  
ないけれど　さー

この線は曖昧なままにしておこう終わりたいとか死にたい  
だとか　mine

寂しさに色を塗るならできるだけ鈍くきらつく色にしてく  
れ　鴨川ねぎ

「きよう嘘をつかれた人は億人」ジョンズ・ホプキンス  
大学調べ　霧島あきら

早朝のホームに流れる空気すら少し眠たげ3月なんだね  
はかなし

マグカップ乳成分が渦を巻く母なる大地が産まれた生命  
何となく短歌

微笑みを風に紛れて隠す意味季節替わりと呟く別れ　元さ  
ん

「じゃあねより「またあとでね」と終わらないままでいよう  
よ朝に旅立つ　みさきゆう

「二人羽織ってさ、ふきのとうに遠慮してるね」お手並み  
拝見するよ　石原とつき

ふくふくし士鈴の雛と桃の花医院の棚にも春が来ており  
凧ちひろ

チョコレート溶け始めるよな気温だと窓の外を見て気にせ  
ずにいる君　Emily Flan

恋やまい寝ても覚めても溺れたり愛撒き散らし忘却に落ち  
Somekawa Yukio

定点の空の模様は春兆し足元の影少し軽やか　みんな  
最近は入手難らしいです三岳のボトルキープしました

#### PERCHES

二度寝する元気がなくて起き上がる午前三時のしづくのピ  
アス　ぽっぽ

靴下をバツテン印に置いてみて後から意味を考えている  
うめたかな

#### ◆ 詩

自己評価高い人

自己評価低い人

従えて教育を

同じレベルなり得ない

こころの貧困切実

我がために何を？

求むものは何？ (crazy lover)

時が止まればばいい

時が早く過ぎればばいい

時が戻ればばいい

.....

無限ループする  
無限ループする  
無限ループする

………

あと幾つ

深呼吸したら

風になるんだろう

(蜜)

小さな幸せとは

レンガのようなもの

重ね続けるのは

今からでも

遅くない (ヤナ・ヤヌー)

◆作品評から

「じゃあね」より「またあとでね」と終わらないままでいよう

よ朝に旅立つ みさきゆう

〜好きです (森内詩紋)

市民課にこの身は果てるけど、ばにら？ 西脇祥貴

〜可愛く書いているのに、句からちよつと怒りのようなものを感じてしました。誰のため、何のためなの、ばにら？

(まつりぺきん)

子どもらがヨリミチと呼んでる施設 おかもとかも

〜寄り道を施設と見立ててみる。その程よいズレ感。

「ヨリミチ」というカタカナ表記で、異質なものにしていくところも効いていて、面白い句だなあと思いました。(まつりぺきん)

早朝のオブラアトのごと春の月 とるぼどーる

↳この句素敵です！（高良俊礼）

雛出せば官女の閨に右大臣 月硝子

↳「別々にしまつたはずなのに！」

お隣さん「ピンポン（ドアチャイム）」

これおたくの左大臣じゃないかしら？」（ふにふにヤンマー）

雛祭に生まれてちよつと恥づかしい たらりずむ

↳実話かと思つてプロフィールのお誕生日確認しちゃいました笑（山桜桃えみ）

ああ犬が大好きなんだなあとわかるあなたの作る猫の短歌  
で たらりずむ

↳わが家の猫が死んで半年が経つ。年齢もあり育てきれないのでもう猫を飼うことはないだろう。犬も猫も道で見かけたら励ますくらいになった。（月波与生）

猫の恋アーリオ・オーリオ食べに行く 花野玖

↳猫の恋とアーリオ・オーリオは語感もいいし組み合わせも面白い。そういう刺激的な季節がまもなくやってくる。

（月波与生）

時々晴れる美術館 西沢葉火

↳言われてみると、美術館は雨か曇りのイメージがあります。誰もが無言で自分の観賞を楽しむからでしょうか。時々晴れる美術館、さてどんな作品が展示されているのでしょうか？（徳道かつみ）